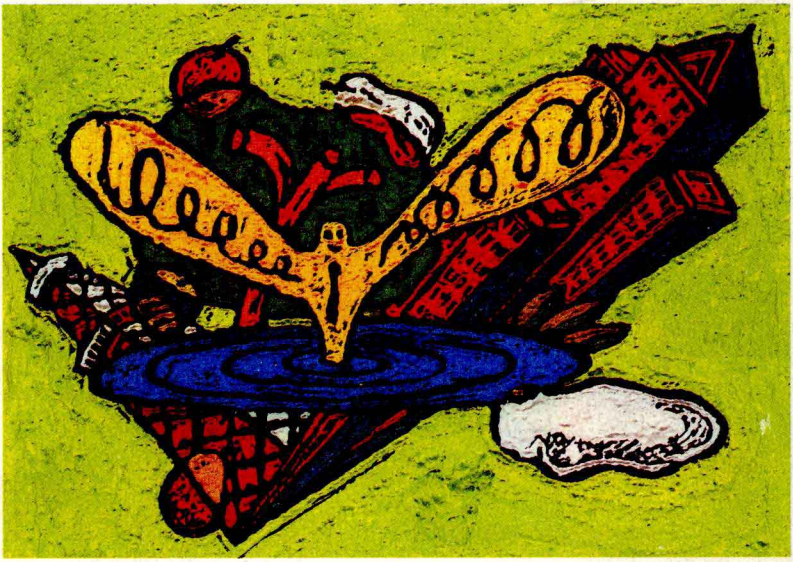
〔光る話〕の花束4　'Bright Tales' Anthology

会社万葉集

青木雨彦 編著



光文社

Tales' Anthology

会社万葉集

青木雨彦 編著

光文社

お願い——

この本をお読みになって、どんな感想をもたれたでしょうか。「読後の感想」を左記あてにお送りいただけましたら、ありがたく存じます。

なお、このほかに、「光文社の本」では、どんな本を読まれたでしょうか。どの本にも、一字でも誤植がないようにつとめておりますが、もしお気づきの点がありましたら、お教えください。ご職業、ご年齢なども お書きそえくだされば、幸せに存じます。

東京都文京区音羽二—十二—十三
（郵便番号112-11）
光文社　出版局

会社万葉集　『光る話』の花束4

一九八九年八月三一日　初版第一刷発行

編著者　青木雨彦
発行者　大坪昌夫
発行所　株式会社光文社
東京都文京区音羽二—一二—一三
電話　東京(〇三)九四二—二二四一（代）
振替　東京六—一一五三四七
印刷所　大日本印刷
製本所　大日本印刷

定価一、三〇〇円
（本体一、二六二円）

落丁本・乱丁本は本社でお取り替えいたします。　© Amehiko Aoki 1989

ISBN4-334-93204-5 Printed in Japan

会社万葉集——目次

◇編者まえがき・7
サラリーの語源を塩と…／島田修二・10　毎日の勤務のなかの…／宮柊二・12　「会社の人事」／中桐雅夫・14　まつとうに生きて必ず…／鈴木誠一・18
〔出勤途上〕始末するならいつどこでも…／外塚喬・22　朝ごとにバス待ちて立つ…／緒方貫・24　「月給取り奴」／黒田三郎・26　「だらにの釘抜き」／佐々木安美・30　日々に会へど互ひに黙し…／丹波真人・38　「通勤」／吉原幸子・40　「通勤者達」／天野忠・44　「満員電車のなかの心電図」／宮城賢・48
「サラリーマン」／滝口雅子・56
〔社内にて＝わが胸のうち〕頭垂れわがいふ詫びは…／来嶋靖生・62　心狭き吾とし思ふ…／横山三樹・64　単純にグラフの線に…／藤田三郎・66　いつよりか人は恃まぬ…／森上結子・68　どのように生きても機構の…／大島史洋・70　理解ある言葉で責めて…／大山敏男・72　安らぎは組織の中に…／岡部桂一郎・74　いさぎよく生くることのみが…／間島定義・76　失敗を惧るる心に…／陣内直樹・78　灰皿に煙草揉み消す…／秋山周子・80　辛くして我が生し得しは…／岡野弘彦・82　働いているから若く…／桐野英子・84
〔社内にて＝憩いと緊張〕昼休みに出でし人らは…／室積純夫・86　「銀座」／安西均・88　とび魚を昼の食事に…／細川謙三・92　むらさきに空昏れしかば…／篠弘・94　やたらに喫ふ煙草は苦き…／川崎芳太郎・96　わが言葉待ちいる狡猾な…／小高賢・98　みせかけの笑顔互ひに…／鈴木晃・100　「ビジネスの廊下」／松下育男・102　春の虹あえかに立てば…／大西民子・110　勤務中みないっせいに…／桜井健司・112　組合と妻の地位やや…／山本広治・114　言い放ち机にもどる…／窪田司郎・116
〔社内にて＝肩書の問題〕わが社名入りたるゴムの…／浅野富み江・118　返したき言葉のみこみ…／新井富子・120　親しまれる税吏になれと…／白石昂・122　わたくしの正しき事は…／山口英子・124　一日のわれの仕事の…／伊吹純・126　秘書といふ職に従きぬて…／小島ゆかり・128　肩書の多き名刺を…／浜田康敬・130
「女子事務員のための習作」／中村ひろ美・132
〔社内にて＝ああ人間関係〕上役になるときせめて…／川辺古一・138　上役をだしぬいて彼…／武田弘之・

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.

140　役退きてなほ日日を…／吉川金一郎・142　人に後る…／清水基吉・144　みづすまし…／鷹羽狩行・146
みづからの地位を守るが…／小野隆雄・148　銀行管理の会社の幹部…／金子一秋・150　手配悪き上司を責め
る…／大橋栄一・152　作業服渡せばすぐに…／辻百木夫・154　愛されず…／藤田湘子・156　脅迫に近き語我
に…／畔上知時・158　ふるまへば既に一定の…／吉田正俊・160
〔アフター・ファイブとは〕通用門いでて岡井隆氏が…／岡井隆・164　タイムカード押して一日…／川人ふ
み・166　苛立ちて指示二つ三つ…／古屋正作・168　「通勤人群」／木島始・170　「憧れは茜さす彼方」／山
本博道・174　酔ふほどにみんながとても…／村崎三斗・184　それぞれの塒に帰る…／北沢郁子・186　「定期
券」／木坂涼・188　ストレスの溜まりし上司…／古澤雄一郎・192　おでん酒…／山口誓子・194　意志一つ得
たるを今日の…／日向勝・196　政治性もなければ駄目か…／松尾勝代・198　何事もなさそうな顔…／赤座憲
久・200　猫とゐて…／平川雅也・202
〔働きバチ　休みバチ〕「日直」／清岡卓行・206　「ある日」／辻征夫・214　「給料日」／阿部恭久・218
「月給袋」／石垣りん・222　「冬の当直」／北村太郎・228　「パチンコ屋行き」／鈴木志郎康・242　休日の
朝おどろきて…／野口定雄・246　「OH！　サンデー」／堀亜夜子・248　「休日のいちにち」／大野新・252
髪刈つて…／結城昌治・256
〔リタイアについて〕引越や…／佐藤和夫・260　感謝状を裂き社長室を…／前田透・262　退職金渡さむとし
て…／川崎勝信・264　一年半まへに退めんとせし…／坂田和子・266　希望退職者相次ぎ別離を…／平林登志
子・268　再びの職のきびしさ…／黒岩哲・270　「石森さん」／瀬沼孝彰・272　大企業につとむる矜持…／加
納一郎・276　停年の迫れる君が…／島田幸造・278　四十六年勤めし職場を…／山本貞子・280　「仕事」／吉
野弘・282　長かりし…／村山古郷・286　また職を…／安住敦・288　空蟬の…／広瀬一朗・290
〔さまざまな仕事〕「労働」／粕谷栄市・294　「九百円」／ねじめ正一・298　「履歴書なんかいらない
わ」／漆原貴子・306　〈職業に貴賤非ず〉と…／石田比呂志・310　「あたしのこどくを」／石毛拓郎・312
◇編者あとがき（青木雨彦）・314

会社万葉集

青木雨彦 編著

装丁　スタジオギブ
装画　藤掛正邦
扉・本文カット　桂川寛

編者まえがき

文章を書くのに呻吟していて、気がついたら、本を読むのがオロソカになっていた。これでは、いけない――と、このシリーズの編者の一人に加えてもらった。仕事として本を読むことを自分に強いるためでもある。

――サラリーマンだったころは、休みの日に本を読むことができた。会社の行き帰りに読むことができた。昼休みにも読むことができた。ちょいと仕事をサボッて読むこともできた。

それが、サラリーマンをやめてしまったら、休みの日に読むことができない。だいたい、休みの日なんてない。しょっちゅう家にいるんだから、会社の行き帰りに読むことも、昼休みに読むこともできない。まして、仕事をサボッて本を読んでいた日には、アゴが干上がってしまう。

わたしのように半ばは自分の意志で会社を辞めた者にして、この感慨である。自分の意志ではなく、たとえば病いを得て会社を辞めざるをえなくなった人の場合は、どうであろうか？

「仕事だけが人生ではない」

というのは、仕事をしている人間の言い草である。あるいは、仕事をすることができる

人間の言い草でもあろうか。

現実に仕事ができなくなったら？　東京新聞の記者だった折笠美秋さんは、句集＋エッセイ集＋画集『君なら蝶に』（立風書房）のなかで訴えている。

泳がずとも、魚か。
翔ばずとも、鳥か。
おまえは、何を書き得たか。
おまえは、何を生きたのか。
思い、断腸。
断腸の思い。

折笠さんの病気は、明日をも知れぬ筋萎縮性のものだ。全身不随、自発呼吸ゼロ、発声不能の折笠さんの作品は、奥さんの智津子さんの血のにじむような、しかし心温まる努力でまとめられた。その経緯（いきさつ）は、折笠智津子著『妻のぬくもり蘭の紅』（主婦の友社）にも、折笠美秋著『死出の衣は』（富士見書房）にも詳しいが、折笠さんはまた、その心境を、

「悲運を恨み悲嘆にくれているわけではない。
歯を食いしばって耐えているわけでもない。
思いがけぬほど晴朗な気分でいる。
深い海のように静謐な時間に居る」

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.

と綴っている。

泳がずとも、魚か。
翔ばずとも、鳥か。
おまえは、何を書き得たか。
おまえは、何を生きたのか。

その答えを得るよすがの一つとして、わたしはこのアンソロジーを編んだ。まず一冊を病床の折笠さんに捧げたい。

千切れ雲あのいくつかは非業(ひごう)の死　美秋

サラリーの語源を塩と知りしより幾程かすがしく過ごし日日はや

島田修二

一九二八年、神奈川県生まれ。著述業。所属誌「青藍」処女歌集『花火の星』主要著書『冬音』『渚の日日』

「サラリーマン」

というのは、じつは「ナイター」などと同じように和製英語だ。正確には「サラリード・マン」（俸給をもらっている人）というべきだろう。

しかし、この「サラリード・マン」という言葉も、あちらでは余り使われていないみたいだ。日本のサラリーマンを強いて英語でい

うなら「ホワイト・カラー」ということになる。
サラリーの語源は、ラテン語の塩である。ローマ時代、兵士に塩を支給していたことから「給料」の意味になった。
それにしても、
「職業は？」
と訊かれて、
「サラリーマン」
と答えるのは、いかがなものか？　これでは、
「給料をもらうのが仕事です」
と答えているようで、恥ずかしい。
そりゃあ、なかには給料をもらうことだけが仕事のようなサラリーマンもいることはいる。が、そういうサラリーマンは、えてしてサラリーマンであることに誇りをもっていないから、妙だ。
「職業は？」
と訊かれたら、経理マンなら「経理マン」と答えたい。それが、プロのサラリーマンであることの誇りではないか。

毎日の勤務(つとめ)のなかのをりふしに呆然とをるをわが秘密とす

宮　柊二

一九一二年～八六。新潟県生まれ。製鉄会社勤務体験。代表歌集『日本挽歌』『多く夜の歌』『独石馬』評論『埋没の精神』

前の晩に飲みすぎ、
「二日酔いだから……」
と言って会社を休むなんぞは、サラリーマンとしては最低だ。プロのサラリーマンなら、たとえ二日酔いで頭が痛くても、断固として出社すべきである。
女房に言わせれば、

「二日酔いになるほど飲むからいけないのよ」

ということだが、もとよりそんなことはわかっている。サラリーマンには、わかっていても浴びるくらい飲みたくなるときがあるものだ。

かりに前の晩に酒なんか飲まなくても、人間だから、体調のいいときもあれば、悪いときもあるだろう。体調の悪いときにも、体調の悪いことを誰にも気取らせないようにするのが、サラリーマンたるものの心構えではなかろうか？

それと同じように、二日酔いで頭が痛いときも、そのようなことは誰にも気取らせないようにする。それこそ、朝、シャワーを浴びて、ヒゲも剃り、糊の利いたワイシャツにネクタイも締め、きちっとした恰好で出社するのである。

会社の仕事にしたって、いつも緊張していなければならない仕事ばかりではないだろう。だいたい実働八時間といったって、四時間はボンヤリしている時間のはずだ。それを、まあ、きょうは一日かけてやるわけである。

会社の人事

中桐雅夫

一九一九年〜八三。福岡県生まれ。新聞社校閲部などを経て、四五年より新聞記者になり六八年依願退職。『中桐雅夫詩集』『夢に夢みて』などの詩集、英米文学の翻訳多数。

「絶対、次期支店次長ですよ、あなたは」
顔色をうかがいながらおべっかを使う、
いわれた方は相好をくずして、
「まあ、一杯やりたまえ」と杯をさす。

「あの課長、人の使い方を知らんな」
「部長昇進はむりだという話だよ」
日本中、会社ばかりだから、

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.